

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【お年寄りを敬う】事業所理念に加え、今年から経営理念・各部署毎の理念も設定し実践に向け努力している。	法人理念と経営理念があり、今年度から法人理念に沿った各事業所理念が作られている。「ご家族の信頼を得ながら共に入所者を支える」ほか、2つの理念がリビングに掲げられており、来訪者、職員が常に目にする事ができる。職員全体会議で業務との関連性を保ちながら具体的な説明を加えているので職員は自分なりに掘り下げケアに就いている。家族や運営推進委員の方々には話や会議の中に盛り込みホームの思いを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議・地域交流会・行事の開催にて、地域の方々との繋がり構築に努めている。集落サロンへもほぼ毎回参加させて頂いている。	法人代表者が地域の住民でもあることから自治会へ加入し、回覧板も廻り、奉仕活動などにも率先して参加し地域の人々との交流を深めている。年に1回当ホーム主催で、地域の方、デイサービス利用者、ホーム家族などに声がけし「地域交流会」を開催している。また、区主催の「集落サロン」にも利用者が参加している。小学生との交流や中高生の職場体験の受け入れ、専門学校生の実習なども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・集落サロンの場を活用し、認知症の理解・支援と啓発活動に取り組んでいる。又、【いつでも、ゆりかごへ！】という位置付けになれる様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の運営推進会議も今年度からデイサービスと共に開催している。行政・近隣・御家族との活発な意見交換を心掛けサービスに反映できる様努めている。	基本的に偶数月の最終木曜日に開催している。家族、区長、民生委員、老人クラブ会長、小学校の先生、市職員、地域包括支援センター職員が委員となっている。法人からは同じ建物の通所介護職員等の参加がある。利用状況やスタッフ活動報告などを行い、毎回テーマを決め勉強の場も兼ねている。6月には「ターミナルケア」について複合施設所長からの講話があり質疑応答があったという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通し事業所の考えを理解頂き、課題解決に向けた話し合いができる様協力関係に努めている。	毎月市の保健センターで、介護職の接遇やキャラバンメイトについて、体を動かしリフレッシュする等の勉強会があり職員が参加・学習している。介護保険更新の調査時には家族からの依頼により職員が対応しており、利用者の現況を調査員に正確に伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議やミーティング・施設内外の研修に参加し身体拘束に関する理解を深め、又拘束の弊害についても把握する様努めている。利用者の尊厳を守る事を念頭におき【拘束しないケア】に取り組んでいる。	外出願望のある利用者には畑の作物の収穫を手伝っていただいたり、職員と一緒に散歩に行くなど気分転換を図っている。1年に1回は身体拘束の勉強会を行い職員は拘束のないケアについて学習・理解・実践している。	

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、一人ひとりが理解を深める様努めている。利用者の権利を重んじ、侵害についても意識を高めながら支援を行い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 成年後見制度ご利用の方はいませんが、必要に応じ適切な助言ができる様援助していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約に関しては、ご本人や御家族に書面・口頭にて責任者が詳細に説明し、理解と納得を得ながら進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、日常生活の中で常に耳を傾け対応できる様努めている。ご家族には、連絡ノートを活用 又、面会時・家族会での意見・要望・苦情を受け止め意見交換会の場で反映する様にしている。	多くの利用者が自分の言葉で表現することができる。2ヶ月に1回食事会を兼ねて家族会を開いている。家族会がスタートした時は公民館を借り開催したが、家族の要望等で利用者と一緒に食事の後家族と職員の話し合いの場を設け意見交換を行う現在の家族会の形になったという。家族が訪問した時には個々に用意した面会簿に意見等を自由に書き綴っていただき、それに対し職員が返事を書きこんでいる。また、法人全体の新聞を年4回発行し家族と職員との意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議・毎日のミーティング・月2回の定例会・申し送りノートを活用し職員からの意見を解決・反映できる様にしている。	月1回全職員参加によるスタッフ会議が開かれている。業務連絡や利用者のカンファレンスなどを行っている。会議時には進行係と記録係を職員が持ち回りでを行い、議題も職員が考えていることから自己啓発にもつながっている。職員同士のコミュニケーションは常に取られているので何でも言い合える風通しの良い職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気持ちは給与・賞与等で歓迎してやりたいと強く思うが報酬が下げられ実行出来ない所が多々ある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は本人のスキルアップと自己防衛の一つだと思っているので機会がある時は必ず参加できる様に協力している。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣でグループホーム連絡会があり情報交換・交流ができる様にしている。7月ゆりかご当番にて実施予定。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、ニーズの聞き取りを行っています。ご家族・以前利用されていた事業所との情報交換を行いながら、ご本人の心配事・不安を取り除く様努め安心できる関係作りを深めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の施設見学を通じ、本人のニーズの聞き取りを行っています。その上で、ご家族・ご本人の希望に添ったサービスの提供が可能か、詳細に伺いながら判断し進めていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複合施設の自施設で満足頂けるか、他事業所の方が良いのか、ご本人・ご家族のニーズに合わせ必要なサービスは何か見極め、支援の提案・提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活暦・生い立ち・経験等を把握・理解し《その人がその人らしく》生活できる様心掛け努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見・希望を伺いながらご本人の様子をお伝えし、ご本人とご家族・職員とご家族間のコミュニケーションと繋がりを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人・ご家族からの聞き取りを通じ、可能な限り馴染みの場所・人との関係が途切れない様努めています。	知人から定期的到手紙が来る利用者には電話で返事ができるように支援している。知人や自宅に居た時のお茶飲み友達などの訪問もある。ホームでは利用者の写真を載せた年賀状を作り家族へ送っている。盆、暮れの行事に泊りで自宅に帰り家族と共に過ごされる方もいる。家族と一緒にいつもの美容院へ行きパーマ等、希望のヘアスタイルにしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状態や日常生活の様子・会話等から利用者同士の関係を把握し、利用者間のコミュニケーションや関わりが図れる様心掛け努めています。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院・他施設等による退所の場合でも、必要に応じ出向いていきご本人・ご家族の希望があれば、相談・フォロー・アドバイスが行える体制を整え努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族から希望や意向を聞き取り把握に努め、又会議・ミーティング等で意見交換をしながら、ご本人の思いを実現できる様にしています。	家族会と同日に行われる食事会の献立等を利用者にアンケートし聞くなど、常日頃から意向を把握するようにしている。書けない方には話を聞きながら確認している。裁縫の得意だった方にボタン付けをお願いするなど、できること、得意なことをしていただき自分の思いを出せるように働きかけをしている。「昔は普通に歩いていたのになあ」など、つぶやいた言葉を職員同士で共有し、その思いに少しでも副えるように色々な工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力頂きながら聞き取りを行い又、以前利用していた施設・病院等からも情報を得て生活歴・生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議やミーティング、申し送りノートを活用しながら情報交換・共有に努め、統一した支援ができる様心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員間で意見交換を行いその上でご本人の意思や思いに配慮された計画作成を心掛けています。又、目標を細かく分析したものを個人ファイルに添付し常時確認できる様にしています。	家族が訪問された時に担当者会議を開き利用者の現況を説明し、利用者の希望や家族の要望を聞きながら計画作成担当者が定期的(3ヶ月～6ヵ月)に作成している。職員全体会議でのケアカンファレンスにこだわらず、日々の申し送りなどで問題が見られる利用者については随時話し合いを行い、目標や支援内容に変更を掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別記録等を活用しながら情報の共有に心掛け、ミーティングで《気づき》を具体化しケアの実践・プランの見直しに反映できる様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設である自事業所の特性を活かしながら、ご本人・ご家族のニーズに可能な限り対応し、支援できる様心掛けています。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域交流会を通じ、地域との繋がりが地域資源の活用ができる様心掛け努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの主治医を継続するか、入居時に委託医へと変更するかをご本人・ご家族の希望にて選択して頂く。必要時には、話し合いや相談ができる様努め納得のいく医療を提供できる様にしています。	かかりつけ医を協力医へと変更された利用者が多くなっている。協力医による月2回の往診と週3回の訪問看護が行われ、医師、看護師、職員との連絡も密に取られている。かかりつけ医への通院の付き添いは家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的(2事業所から1日おき)に訪問し、ご本人・職員からの相談や訴えに対応しています。健康状態の情報共有・管理と治療・相談に対応できる様努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院に向け、主治医・ソーシャルワーカー・ご家族と情報共有できる様心掛け努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、ご本人やご家族の希望に対してできる限り添える様 主治医・訪問看護師・ご家族と十分に検討し支援に取り組んでいる。	開設からの12年間で9名の利用者の看取りが行われた。毎日の生活の中で家族との信頼関係を築き、ターミナル時ギリギリまで話し合いを重ね、家族の意向に副うように取り組んでおり、医療機関、訪問看護、職員の連携のもとに行われている。今年度6月の運営推進会議にターミナルケアについて議題として取り上げ、ホーム側から説明が行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法を含め救急・救命講習を社内研修にて行い、ほぼ全職員が参加・習得しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡訓練・避難訓練を定期的に実施し災害時に備えています。又、近隣・地域住民の方にも参加を呼び掛け協力頂いています。	年2回、利用者、職員はもとより、地域住民の参加を得て実施している。スプリンクラー、自動通報装置、消火器等が設置され、業者によって定期的な点検も行われている。運営推進会議で有事の際の協力を委員にお願いするとともに災害時の避難場所としてホーム利用も可能であること伝えている。過去の中越地震や長野県北部地震の際に地域の方や高齢者の避難の受け入れを行ったことがある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定の尊重と尊厳を守る事に充分留意し徹底しています。又、理念に基づき権利侵害の防止を常に意識しながらケアを行っています。	各居室にカギが付けられていて夜間たまに内側からカギをかける利用者がいるが自由に使用していただいている。日中は居間で過ごす利用者が多く居室のドアは開かれ暖簾で目隠しされている。職員は敬意を込めて名前や苗字に「さん」づけで利用者の方々をお呼びしている。異性介助を嫌がる方はなく、孫のような職員に介助してもらい「悪いな」と感謝の気持ちを言葉で表す利用者が多いという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での関わり・会話において常に意識し、ご自身の思いや希望等を表現し選択できる方向を取りながら、自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念《その人らしく その人のために》に基づき実践できる様、一人ひとりのペースを尊重し日課に捉われない個人支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し、気温・季節感等にも配慮しながら又、ご家族にもご協力頂きながら肌着・衣類・他ご本人が選択できる様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理員が作っていますが、みそ汁のみグループホームで作る方向とし利用者様にも野菜の下ごしらえ等手伝って頂いています。又、食器拭き・片付けも協力して頂いています。	畑で収穫した野菜が色々な料理として登場している。昼食の時はテレビを消し音楽を流し、当番の利用者が「いただきます」、「ごちそうさまでした」と発声し全員で唱和している。2つのテーブルがあり、自宅の所在地が近い利用者を同じテーブルにするなど会話が弾むように配慮がされている。流しそうめん、桜餅、やしょうま作りなど利用者の腕の見せ所もある。誕生会は職員手作りのシフォンケーキやプリンでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、個別に日誌に記入し把握出来る様努めています。ご本人に合った食事量・形態・好みでない物の時は代替品を提供する等配慮しています。食事量の低下・水分摂取量にも注意しながら、栄養面で偏りが出ない様心掛け努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行っています。義歯は毎食後洗浄し、夕食後は洗浄剤を用いて汚れ・臭いが生じない様にしています。又、義歯のない方には舌ブラシ・スポンジタイプの物を活用し清潔保持に努めています。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら個々の排泄パターンの把握に努め、排泄間隔にも配慮しトイレでの排泄ができる様努めています。	布パンツを使用している方がおり、オムツ対応の方でも立位がとれる方にはトイレでの排泄を促している。在宅でなかなか排便が難しかった方が毎朝トイレでの排便が可能となり利用者も喜んでいるという。夜間、居室でポータブルトイレを使用する方も若干名おり、利用者一人ひとりに合わせ支援方法を変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量・食事形態の把握に併せ、適度な運動や活動量にも配慮しながら便秘予防に努めています。又、下剤の使用に関しては主治医・看護師の指導のもと個人の状態に合わせて行う様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬季は週2回・夏季は週3回の入浴を行っています。希望される方がいれば、入浴日以外でも入浴・シャワー浴ができる体制をとっています。又、季節感を感じながら入浴を楽しんで頂ける様ゆず湯・菖蒲湯・りんご湯・バラ湯等も提供しています。	風呂場は家庭と同じように、洗面所と脱衣所が一体となっており、入浴する方がいない時にはドアを開くことができ、食後の歯磨きや来訪者の手洗いの場として使われ、入浴している時にはプライバシーを守るためにドアやカーテンで仕切られるようになっている。車イスの利用者でも立位がとれる方は職員2人体制で介助し湯船に浸っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠されるまでの導入支援を大切にしています。晩酌を楽しまれる方、読書される方等個々の生活習慣や状況に応じ良眠へ繋げる様心掛けています。眠剤の服用に関しては、主治医・看護師と相談しながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬に関し、職員全員が把握できる様心掛けています。又、作用・副作用についても充分留意努めています。主治医・看護師・ご家族とも連携し日々の状態等情報共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の《できる事》・《できない事》を把握し職員が援助する事で、日常生活を送る中役割を担って頂き、張り合い・喜びを感じるとともに意欲の向上へ繋げる様努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、外気浴・散歩等の機会に戸外へ出ています。又ご家族やボランティアサークルの協力を得ながら散髪・食事・行事等の外出支援を行っています。	平均年齢が90.2歳、車イスの方が4名と利用者の動きは必然的に緩やかなものになっているが、ドライブをしながら、花見、ダリア園・バラ公園の見学など、家族やボランティアの協力をいただき出掛けしている。また、日頃はテラスなどで外の空気に触れるようにしている。外食レクとして回転寿司へも出かけている。	

グループホームゆりかご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方については、ご家族の承諾のもと持って頂いています。又、買い物で金銭を使用する際には状態に応じ見守り等支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応できる様努めている。代筆・代読含め手紙や電話で連絡できる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等の共有スペースは、季節に合った飾り付けを工夫し季節感を持てる様に支援している。又、冬季はコタツを夏季は縁台を設置し心地良く過ごせる空間作りを心掛けています。	ホームの入る建物は傾斜地を利用した造りで、ホーム玄関へは斜面途中から直に入れるので1階のような感覚であるが実際は玄関、ホール、居室は2階で、居間から見える外の景色の眺めが良い。居間には時計、テレビ、掲示板などが配置されている。季節の花や利用者の共同作品と共に献立や理念なども掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と過ごして頂ける様、座席の配置に配慮しています。テレビ観賞を好まれる方には見易い位置に。冬季はコタツを設置しテーブル席と選択できる様努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・家具・衣類等、使い慣れた物や思い出のある物を置き心地良く・安心して過ごせる様居室の配慮に努めています。	居室の入り口には表札代わりに花の名前が記されている。暖簾がかけられドアを開けていてもプライバシーが確保されている。好きな花の写真で室内を飾り付ける方、家族の写真を飾っている方、仏壇の持ち込みされている方など、利用者の好みのものや馴染みのものが居室に配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、それぞれの方に合わせた居室の位置・目印等に工夫しながら自立した生活が送れる様努めています。		